新eラーニングを定義する

E195410 望月　杏奈

前回の自分なりのeラーニングの定義

「ICT機器を利用して学びを支援する仕組みの事であり、インターネットを活用して「いつでもどこでも誰でも」利用できる。ICTを活用するからこそ行える高度な学び（動画教材やソフトウェアの利用）によってより深い学びや理解を助け、また、受講者の学習計画や学習活動自体を支援するシステム。」

自分のeラーニングに必要な評価

いつでも行えるeラーニングでは、実際に知識や技能が身につけられているのかということを確かめることが必要になると考えられる。そのため、授業に応じて実際に知識や技能が身につけられたのかを確認することが必要になる。

自身はeラーニングにおいて、ブレンド型で現実とeラーニングを半々に利用することもeラーニングとして含まれると考えているので、授業全体の評価としてパフォーマンス評価によって、eラーニングで学んだことを実際に発表する等の方法も良いと考えられる。また、個々のeラーニングの内容については、理解度を図るためのテストの点数による客観的な評価を行うことが良いのではないかと考えられる。

eラーニングのテストでは、実際に対面で行うような試験は行えないため、実際に自分で調べる、資料を見返す等のことを行いながら解いてもらい、問いに答えるという活動を通して知識が身に着けられると思う。

Eラーニング全体では、個々のテストの客観的評価よりも、実際のパフォーマンス評価を重視したほうが良いと考える。

個々のテストはあくまで知識や技能を身に着ける過程に行われるもので、

それらを身に着けて実際に行うことをパフォーマンス評価として評価する。

[ronshu\_54(1)\_079\_nakagawa\_taira\_ogata.pdf (gku.ac.jp)](http://gku-repository.gku.ac.jp/bitstream/11207/346/1/ronshu_54%281%29_079_nakagawa_taira_ogata.pdf)